

長野日本大学高等学校について

〈認可事項〉 **私立高等学校の学科の設置**

1 設置の趣意

別紙1「設置趣意書」のとおり

2 学校概要

(1) 目的 教育基本法及び学校教育法に基づき、中学校教育の基礎の上に、心身の発達に応じて高等普通教育を施すことを目的とする。

(2) 名称 長野日本大学高等学校全日制課程探究創造科
(普通教育を主とする学科)

(3) 位置 長野市大字東和田字中道253-3

(4) 設置者等

① 設置者 長野市大字東和田字中道253-3
学校法人 長野日本大学学園

理事長 ^{やなぎはら}柳原 ^{てつお}哲夫

令和3年7月1日～ 学校法人長野日本大学学園理事長

② 校長 ^{そえや}添谷 ^{よしひさ}芳久

平成26年4月1日～ 長野日本大学中学校・高等学校校長

令和3年4月1日～ 長野日本大学小学校校長

3 学科の設置

(1) 開設時期 令和4年4月1日

(2) 収容定員

学科	現行 収容定員	変更後 収容定員
普通科	1050	930
探究創造科	—	120
全日制課程計	1050	1050

(3) 学級編成

※ () は生徒数

学科	現行	令和4年度	令和5年度	令和6年度
普通科				
探究創造科				

(4) 教職員組織

(人)

区分	校長	教頭	教諭	講師	養護 教諭	事務 職員	計	
基準	1	27 以上 ^{※1}				相当数		
計画 ^{※2}	計	1	2	40	23	1	8	75
	専任		2	38	7	1	7	55
	兼任	1		2	16		1	20

※1 収容定員を40で除した数以上（高等学校設置基準）

※2 計画は令和4～6年度（同数）

4 新学科について

(1) 概要

- 令和3年3月31日 学校教育法施行規則等の一部改正公布
「普通教育を主とする学科」に普通科のほか、「学際領域に関する学科」、
「地域社会に関する学科」、「その他特色・魅力ある学びに重点的に取り組む学科」
の設置が可能となった。

①連携教育体制（コンソーシアム）の構築

- 学際領域に関する学科
大学等、国の機関又は国際機関その他国際的な活動を行う国内外の機関、団体で構成
- 地域社会に関する学科
学校所在地域の行政機関又は事業者その他地域の活性化に資する活動を行う機関、
団体で構成

②学校設定科目を学科の生徒全員が履修

- 学校設定科目（学科の特色等に応じた目標及び内容を定めた学校設定科目）を3年
間で2単位以上履修する。
- 上記の学校設定科目と「総合的な探究の時間」とを合わせて6単位以上履修する。

(2) 「探究創造科」の概要

「学際領域に関する学科」と「地域社会に関する学科」を兼ねる学科

①連携教育体制

- 「長野日大コンソーシアム」
日本大学、ライオンズクラブ、タイガーマブ株式会社（海外インターンシップ）、
日本大学附属高校（全国26校）により構成

②履修科目

- 学校設定科目（全員が履修）
「サービスマナー」 （1年次・1単位）
「ソーシャルアンドエモーショナルラーニング」 （1年次・2単位）
- 「総合的な探究の時間」 （1～3年次・各1単位、計3単位）

※科目概要は別紙2のとおり

③コース設定

- 「グローバルプロジェクトコース」と「スポーツカルチャーコース」の2コースを
設定

長野日本大学高等学校「探究創造学科」趣意書

学校法人 長野日本大学学園

〈趣旨〉

生徒の学習意欲を喚起し、生徒のポテンシャルとその能力を最大限に伸ばすためには、学校の特色化と魅力化が欠かせない要件である。そこで、本学では、文科省「普通教育を主とする学科」の弾力化・大綱化（高校普通科改革）にもとづく特色ある学科を2022年4月より新設したい（募集定員30名）。すなわち、「興味/関心/好奇心」を深く掘り下げることによって新たな価値を創出し、社会貢献する人を育てることを目的として、「探究創造学科」を設けたい。この学科は、従来の高校普通科にみられる画一的な学びによる「ゼネラリスト」の育成や大学受験を目的とした「偏差値教育」とは大きく異なる。生徒各人の「やってみたいこと」・「学んでみたいこと」・「深めてみたいこと」を動機づけの源泉とし、自発的な学びの試行錯誤と経験をリフレクション（省察）しながら結論を導く思考スキルを繰り返し実践することにより、得意なことを伸ばす「スペシャリスト」の育成ならびに「尖った人材」を育成する学科である。

新学科の教育コンテンツの柱は大きく分けて2つある。ひとつは、地域・日本・世界の人々と幅広く協働しながら個人テーマ等を深く学び、世の中の課題解決のためのソリューションを具体的に提案・発信・実践することによって、社会のイノベーションにつなげていこうと試みる「グローバルプロジェクト」(GP)コースである。もうひとつは、本学でこれまで様々な実績をあげてきた「スポーツ」(とりわけ人間の文化活動としてのスポーツの側面)に注目し、「スポーツ」を「する」・「みる」・「支える」・「調べる」の4観点から深く学ぶことにより、スポーツとの多様な関わり方について提案・発表・実践を行い、人間のQOL(クオリティオブライフ)向上に貢献する「スポーツカルチャー」(SC)コースである。

以上の学科コンセプトにもとづき、生徒たちが個人と社会のウェルビーイングを実現させるための「チカラ」を身につけ、他者を大切にできる「共存力」・自ら考え行動する「自律力」・価値を創出する「探究力」を研ぎ澄ましなが、令和の時代ならびに「アフターコロナ」にふさわしい新しい高校普通科教育の特色化・魅力化により、私学だからこそできる独自の価値ある高校教育を実践して参りたい。

〈教育課程〉

生徒一人ひとりがその人らしく成長することを重視とした「ホール・チャイルド」アプローチの考え方を基調としながら、「ハート」(心)・「ボディ」(身体)・「マインド」(頭)を育てるための教育課程を編成する。各学年の教育課程においては、高校普通科必修科目等を25～27単位程度(3年間で79単位)履修した上で、探究活動に関わる「学校設定科目」を8～10単位程度(3年間で26単位)と大幅に増設し(従来の高校普通科・専門学科・総合学科では2単位程度が多い)、学びたいことの深

化を図る。本学科の基幹科目としては、次のような2種類の学校設定科目を設ける。すなわち、①生徒の学びを公共の目的に役立たせる「サービスマーケティング」(SL)を設定することにより、社会貢献活動を支えるための「マインド」(頭)を育成する。②感情プロセスやソーシャルスキルなどの「非認知能力」を身につけるための「社会性と感情の教育」(SEL)を設定することにより、ハート(心)とボディ(身体)の健康を育むことにつなげる。その他の「学校設定科目」については、2つのコース内容を「尖らせる」ための実践的ならびに方法論的科目群を予定している(ビジョニングミーティング、プレゼンテーションミーティング、コンソーシアムラーニング、スポーツ探究ゼミ、健康スポーツ実技など)。

〈教育体制〉

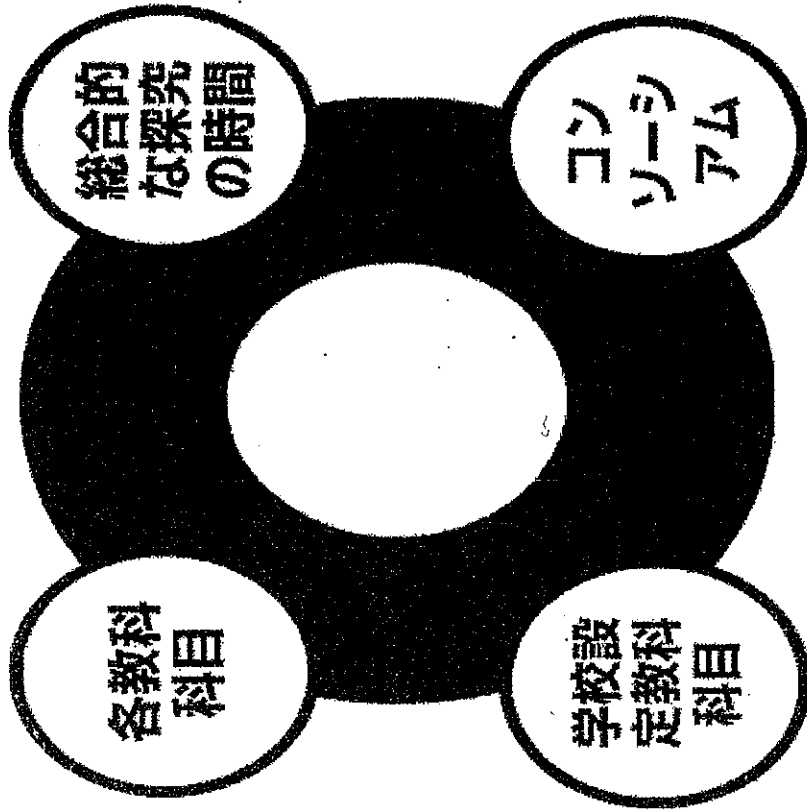
従来の高校普通科の教育体制と大きく異なる点は、講義・演習・実習・実践において教員以外の外部人材を大幅に取り入れるところにある。すなわち、生徒の学びのニーズを最大限整えるため、学外の人々や団体と連携・協働するための「長野日大コンソーシアム」を形成する。大学付属校としてのメリットを最大限に活かした「日本大学」全学部のアカデミックな有識者、社会貢献するための実践の場としての「ライオンズクラブ」との協働、グローバル探究のハブ役を担う海外インターシッブ事業を手掛ける「タイガーマーブ株式会社」との提携など、現在の学びにおいても既にコンソーシアムが組まれている。コンソーシアムの一翼を担う教員の役割も従来とは大きく変化する。教員は生徒に「答えを教える」存在ではなく、生徒が未知の解決策を見出すための「学びの伴走者」であり、また学内と学外をつなぐ「コーディネーター」役を担う。これらのコンソーシアム構想に加え、日大の付属学校課と連携をしながら、北海道から九州まで日本全土に広がる全国26校の「日大付属高校」の生徒3万人を対象とした、「長野日大・探究創造サミット」を定期的で開催することによって、全国の高校生を「探究的な学び」という視点で強固につなぎ、新たな価値創出のための生徒同士の国内ネットワーク構築を、信州・私学の長野日大「探究創造学科」が拠点となって推進していきたい。

〈本学科が地域へもたらすインパクト〉

本学科の学びや教育活動が地域へ波及する効果は甚大である。第一に、コンソーシアム先として想定される長野市内あるいは長野県内の企業やスポーツ団体と高校生の関わりが相対的に増大することによって、生徒たちの地域理解と地元貢献志向が促進され、県外への人口流失抑制につながり、ひいては学校を拠点とする地域振興への契機となること。第二に、本学科がもたらす生徒同士による「学び合い探究」を日大グループのみならず、市内県内の公私立の小中高に敷衍することにより、学校や校種の枠組みを超えた生徒交流が促進され、学びの刺激による学習効果が期待される。

探究創造学科の特徴

「仮説—検証—発表」型の
学習サイクルを導入
課題解決型の学びを各単元で
実施



探究学習の入門的ならびに基
礎的な学び
学校設定科目での深い学びの
導入につなげる

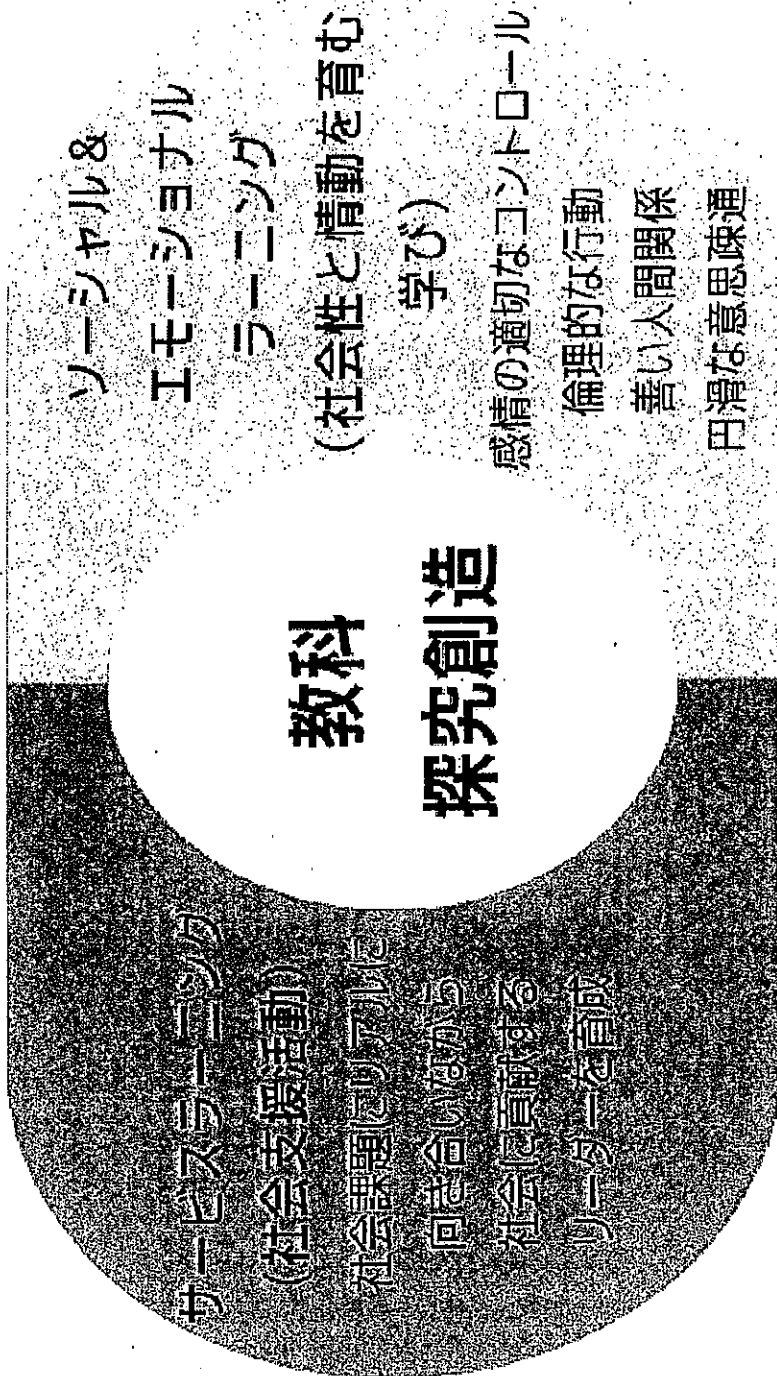
社会的な課題や地域が有する魅
力についての探究的な学び
複数の学問領域から再構築され
た最先端の知見に関する学び

多様な主体による協働体制
大学/企業/地域団体/NPO
個々の学びに対応した構成
各組織の違いを学びに活用

学校設定教科：「探究創造」について

探究を進めるための基幹科目として設定

社会貢献のマインドと生きる知恵・スキルを学ぶ



サービスマスターニング

内容

字ひの目的に照らし合わせながら、地域の企業、NPO、地域団体、校内外施設を支援するためのボランティア活動

具体的な活動

世界的な奉仕団体である「ライオンズクラブ」の支援のもと、様々なボランティア、アクティビティについて校内外で生徒自らが発案し、行動し、振り返ることを一連の学びとする。

期待される教育効果

社会の現場ニーズに応え、貢献することに加え、自分の行為を深く反省することにより、責任感と行動力のある市民として活躍するサーバントリーダーを育成する

リーダーシップ教育プログラム

内容

世界的な奉仕団体である「ライオンズクラブ」が米国で開発した「ライオンズスキル教育＝ライオンズクエスト」をテキストにしなから、学校生活だけでなく社会人生活でも大切な非認知能力を育成。

具体的な活動

- ①自己意識を理解する
- ②自己管理トレーニング
- ③適切な社会意識の醸成
- ④人間関係力
- ⑤責任ある意思決定方法

期待される教育効果

「私は何者か？」

「私はどう他者と関係を築くのか？」

「私はどう社会に貢献するのか？」

上記3つのテーマについて、自分の言葉で自分なりの答えを見出し、幸せな歩み方を追求するための態度資質を育成。